

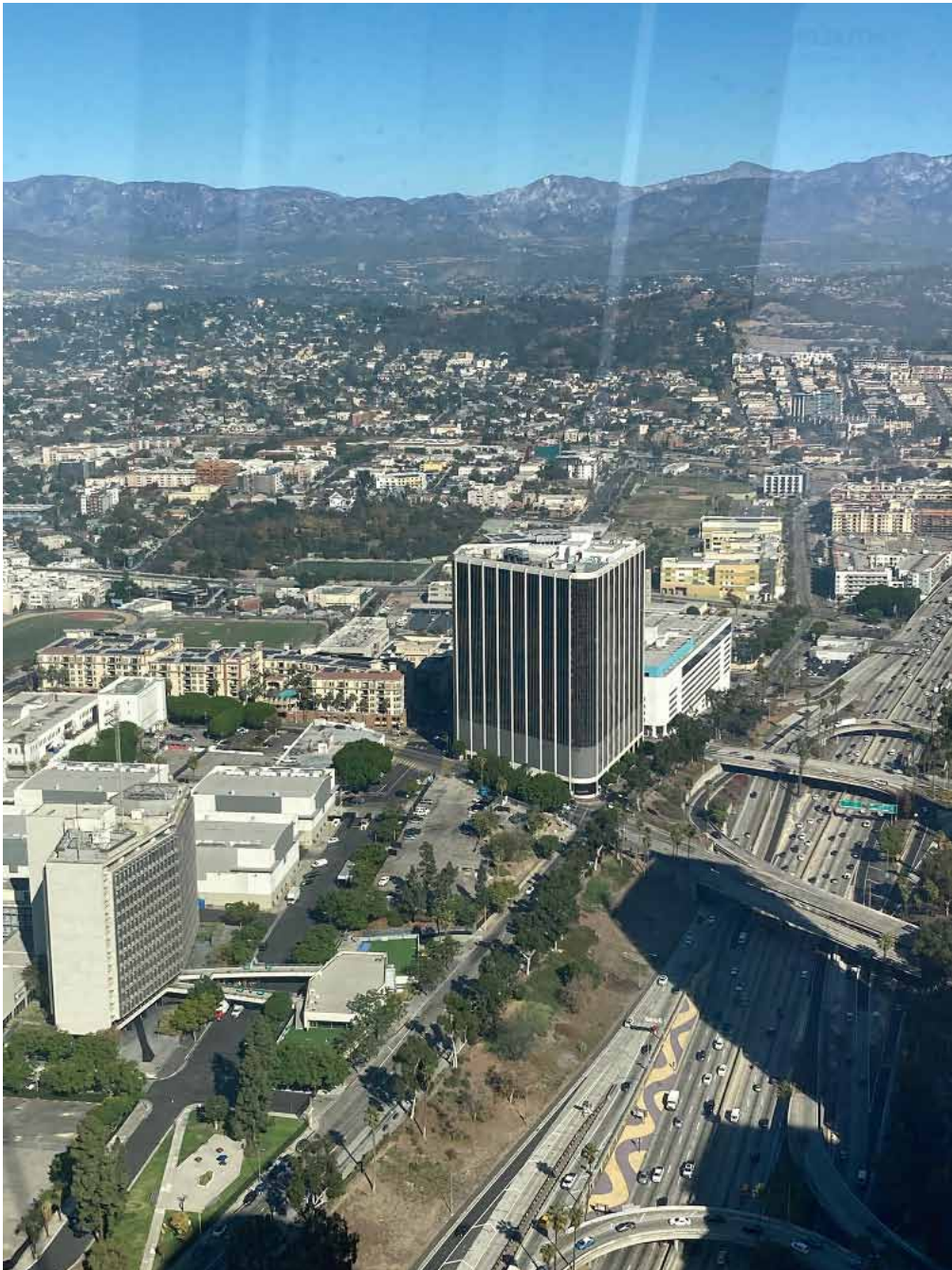
01

12月 2021

# 私は山に向かって目を上げる。私の 助けは、どこから来るのだろうか。詩篇121：1

by NCM2 CHOIR

全5page



サンフランシスコ近郊から、友人がご主人の出張についてロサンゼルスに来るので、私達に会いたいという知らせがありました。

きけば、ロサンゼルスを中心地の最近できた高層ホテル（Intercontinental Hotel）の70階に滞在するとのことでした。冒険好きな私は、そのホテルまでお迎えに行きたいと思いました。というのも車社会のカリフォルニアですが、このごろ、公共機関を使って動けることがわかってきたばかりだからです。

調べてみるとそのホテルのすぐそばまで、電車と地下鉄で行けることが判明。一回乗り継ぎです。まだ行ったことがないところですから、少し、不安はありました。

最寄りの駅から路線ゴールドラインの電車に乗ったのが9：31分。5つ目のユニオンステーションという、いわばハブの駅で地下鉄に乗り換えることはわかっていました。駅の表示を見ながら、乗り換えのレッドラインという路線の電車に乗ろうとしましたが、ホームの両側に電車がついています。

駅の工事に携わっている人に確認のため、メトロステーションに行くにはどうしたらよいか、訊きました。すぐ来ている電車に乗ればよいと言われ、3つ目で下車。でもどの方向の出口に降りてよいのやわからず、駅員はいないので、清掃している若い人に尋ねました。



改札を出るときにはもっている乗車券を出す必要もないと言われ、怖いくらい閑散とした広い通路からエスカレーターで地上へ。



視界が開けました。賑やかな町中です。さて目指すホテルの900 Wilshire はどこか、真ん前にも横にもそびえたつビル、ビル。やはり訊くのが一番とちょうど右側のビルから出て来た感じの良いおじさんに「900 Wilshire は？」ときくと笑いながら、道路の向こう側のビルを指さしました。

喜び勇んでそのビルにたどりついて Wilshire 側のドアはホテルと書いてあるのにすべて出口でした。人気(ひとけ)もありません。角を曲がってみました。道路の名前は Figueroa です。いかにもホテルの授業員らしい、ハンサムな黒人青年に出会いました。また訊きました。



彼は今彼が来た方向を示し、入口を開けるように今仲間に指示するから、彼の示した方向に行くようにとガイドしてくれました。

その方向に行ったところ、出口の前の広場には多くの旅行者らしき人々がたむろしていて、連絡があったとみえて、すぐ入口のドアが開かれ、ホテルの従業員が私をエレベーターまで案内してくれました。

70階直通エレベーターでした。降りたところがホテルのチェックインカウンターで、そこですぐ友人に会う事ができました。時間は10時ちょっとすぎ。家の近くの駅を電車に乗ってから、たった30分でこんなところに行きつくとは。



これがホテルからの景観です。ニューヨークで息子につれられて、このような光景を見ることがありますが、ロサンゼルスダウンタウンの一望は初めてです。

友人と360度、景色を楽しみ、とくに山が見えたので、詩篇121の1節を思い出しました。

「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。 私の助けは、天地を造られた主からくる。」

そうでした。今までの人生、いろいろなことがありましたが、ちょうど友人のいるホテルに着くまででいろいろな人に訊いてたどり着いたと同じように、いろいろな人に助けられ、また不安と思っていた人生を何よりも助けてくれた神様がいらっしゃったのです。

そしてやがて天国まで導いて下さり、そこではこのロサンゼルス景色以上にすてきな景色が待っていることでしょう。

竹下弘美



## 折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

メール oriochurch@outlook.jp

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00) URL <http://www.oriochristianchurch.net>